

2021/03/02 (火)

朝の礼拝

聖書 コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章14-20節 (新約聖書316頁)

体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるのでしょうか。耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるのでしょうか。もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでおいをかぎますか。そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。

みんなちがって、みんないい

今、読んだ聖書は人と人の関係を人間のからだの部分にたとえたお話でした。足がわたしは手ではないから、耳がわたしは目ではないから体の一部でなくなるのでしょうかとありました。体の部分はそれぞれ違って、どれも大切です。

国語の教科書にあるので知っている人もいると思いますが、金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩があります。お読みします。

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。
私がかからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

なぜか読むたびに、ほっとします。

昨日、高校3年生81名の先輩が卒業式を迎えました。実はその先輩の中には学校に通うことが困難な先輩がいました。でもマイペースで準備して大学に無事合格しました。逆に毎日学校に通い、クラスメート共に授業を受け、とても学力も優秀な先輩がいました。でもその先輩は、卒業後はマイペースで学び続けたいと決心しました。そして卒業生全員がひとり一人ちがう新しいステージへと進みました。

みんなちがって、みんないい。学校は一斉に授業、宿題、試験、評価があり窮屈なところですが、でも学ぶことに制限はありません。友だちとおしゃべりする、一緒に歌う、踊る、からだを動かすことと同じです。ひとり一人の自由です。みんなちがって、みんないいのです。私は鈴ではないし、小鳥ではありません。私は「わたし」です。だからわたしの努力はわたしを裏切らないのです。どうぞ思う存分、今日からのテストに挑んで下さい。

(しばらく黙祷しましょう)

英和女学院、英和生を愛し、励まされる主よ。

本日より後期期末テストを行います。進級、卒業、進学に関わる大切な試験です。どうかひとり一人の努力に報いる結果となり、さらなる学びの糧となりますようにお導き下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、安全で健康な学校生活をお守り下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン